

## 一級河川鴨川およびその周辺における木くずの不法投棄事案の対応について

### 1 復旧作業について (別紙 1)

一級河川鴨川およびその周辺における木くずの復旧作業については、昨年末から順次作業が進められ、2月26日に撤去作業が、3月4日に整地作業が終了し、現場での復旧作業は完了しました。

### 2 土壌の放射能濃度等について

木くずの撤去作業が確実に行われたかどうかを確認するために2月下旬から3月上旬にかけて、管理用通路等における土壌の放射能濃度検査および空間線量率の測定を実施しました。

#### (1) 土壌の放射能濃度 (別紙 2、3)

土壌採取を行って検査したところ、放射性セシウムの濃度は「検出せず」～24 Bq/kgであった。この数値は、原子炉等規制法で「放射性物質として扱う必要がないもの」と定める100 Bq/kgを大きく下回るとともに、県内4カ所(長浜市、高島市)においてH15年度～H18年度に測定された土壌の調査結果1.36～38.7 Bq/kgと比較しても同程度であり、健康や安全には問題のないレベルであった。

	土壌の検査結果
放射性セシウム(Bq/kg)	検出せず～24

採取日：2月23日(再2月26日)、地元立会い2月28日(再3月4日)

#### (2) 空間線量率 (別紙 3、4、参考)

2月23日・28日に測定したところ0.084～0.13 $\mu$ Sv/hであり、昨年9月11日に測定した結果と比較すると約1/3に低下した。

測定した空間線量率は、ICRP(国際放射線防護委員会)の勧告値をもとに環境省が示している追加空間線量率0.23 $\mu$ Sv/hと比較して低い値であり、周辺地域の空間線量率(0.082～0.14 $\mu$ Sv/h)と比較しても同程度であった。

	2月23日・28日の測定結果	9月11日の測定結果
空間線量率( $\mu$ Sv/h)	0.084～0.13	0.098～0.41

### 3 刑事告発について

廃棄物処理法および河川法違反の疑いで、3月4日に滋賀県警察本部に告発状を提出し、3月5日に受理されました。

#### (1) 行為の概要

被告発人は、平成25年3月15日ころから同年4月30日ころまでの間、滋賀県高島市安曇川町下小川字北浜1105番2他地先の一級河川鴨川河川管理用通路他において、次の違法行為を行った疑いがある。

① 産業廃棄物である木くず合計約310立方メートルを、通路の不陸の整備を装い、長

長さ約573メートル、幅員最大約4.9メートル、厚さ最大約0.27メートルに亘って敷き均すなどにより、廃棄物の不法な投棄を行った。

- ② 河川の管理者である滋賀県知事の許可を受けず、かつ法定の除外事由がないのに、長さ約573メートル、幅員最大約4.9メートル、厚さ最大約0.27メートルに亘って廃棄物である木くずを敷き均し、もって、同河川区域に面積約1,836平方メートル、体積約262立方メートル、同河川保全区域に面積約208平方メートル、体積約48立方メートルの同木くずを敷設したことにより土地の形状変更を行った。

## (2) 違反の事実

上記(1)の行為は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第16条(廃棄物のみだり投棄禁止)違反、ならびに河川法 第27条第1項(土地の掘削等の許可)および同法第55条第1項第1号(河川保全区域の行為の制限)違反に該当する。

## (3) 被告発人について

調査した事実関係から、行為を行ったと疑われる者 3名

## 4 今後の対応について

### (1) 安全・安心メッセージ

木くずの下および周辺の土壌の放射能濃度、空間線量率の測定結果、河川水、魚類、水道水、空間線量率などの定期モニタリングによる測定結果に加えて、魚類、灌漑用水、水道水、農地の放射能検査を実施し、安全を確認したうえで、3月末までに県から安全・安心メッセージとして公表するとともに地元への説明を行う。

### (2) 事案の総括

今後、警察の捜査の進捗状況を考慮し、事案の経過や撤去作業の内容、これらに対する県の対応、今後の再発防止策などを含む事案の総括を行う。

門扉から50m地点

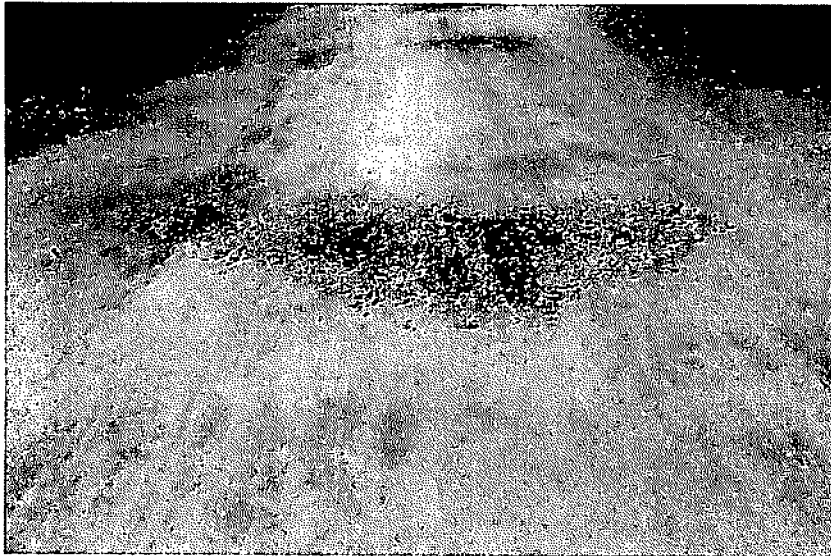


門扉から250m地点



門扉から450m地点





別紙2 土壌の放射能検査結果

試料採取日:平成26年2月23日

採取場所 (門扉からの 距離)	放射性セシウム(Bq/kg)		内 訳		含水率 (%)	参考 敷設チップの色等
	セシウム-134+セシウム-137	セシウム-134(Bq/kg)	セシウム-137(Bq/kg)			
10m	検出せず (<5.7)	検出せず (<2.72)	検出せず (<2.93)		4.3	黒
30m	10	3	7		7.5	黒
50m	検出せず (<6.3)	検出せず (<3.11)	検出せず (<3.14)		4.5	黒
70m	4	検出せず (<2.42)	4		6.2	黒
128m	6	検出せず (<2.93)	6		8.7	白
130m	検出せず (<6.4)	検出せず (<3.09)	検出せず (<3.28)		6.5	白
150m	検出せず (<6.3)	検出せず (<2.92)	検出せず (<3.36)		5.4	白
170m	検出せず (<5.7)	検出せず (<2.69)	検出せず (<3.05)		3.9	黒
230m	検出せず (<6.2)	検出せず (<2.89)	検出せず (<3.28)		5.6	黒
250m	検出せず (<5.9)	検出せず (<2.93)	検出せず (<2.93)		5.1	黒
270m	検出せず (<6.1)	検出せず (<2.81)	検出せず (<3.29)		4.6	黒
330m	検出せず (<5.5)	検出せず (<2.73)	検出せず (<2.74)		3.2	黒
350m	検出せず (<6.3)	検出せず (<2.97)	検出せず (<3.37)		5.0	白
370m	3	検出せず (<2.77)	3		4.1	白
410m	検出せず (<6.2)	検出せず (<2.84)	検出せず (<3.39)		5.9	白
430m	検出せず (<6.5)	検出せず (<3.20)	検出せず (<3.26)		5.2	白
470m	検出せず (<5.5)	検出せず (<2.75)	検出せず (<2.74)		3.6	黒
510m	7	検出せず (<3.00)	7		6.2	黒
530m	4	検出せず (<3.07)	4		6.8	黒
550m	13	4	9		5.3	黒
570m	9	検出せず (<3.24)	9		6.0	黒
575m付近	検出せず (<6.2)	検出せず (<2.86)	検出せず (<3.37)		6.2	土のう袋のあった地点
582~590m	8	検出せず (<3.12)	8		6.0	土のう袋のあった地点
590~600m	検出せず (<6.7)	検出せず (<3.06)	検出せず (<3.61)		3.7	土のう袋のあった地点
625~638m	19	5	14		8.4	土のう袋のあった地点

( )内の数値は検出限界値

再検査結果(※)

試料採取日:平成26年2月26日

30m	検出せず (<6.1)	検出せず (<2.58)	検出せず (<3.47)	3.4
550m	検出せず (<6.5)	検出せず (<3.02)	検出せず (<3.46)	6.8
625~638m	検出せず (<6.5)	検出せず (<3.06)	検出せず (<3.39)	7.2

( )内の数値は検出限界値

※ 放射性セシウム濃度が10ベクレル/kg以上であった下記3地点については、再度すき取り作業を行った後に再検査を実施。

別紙3 地元立会いによる土壌採取時の放射能セシウム濃度および空間線量率の検査・測定結果

試料採取日:平成26年2月28日

検体番号	採取場所 (門扉からの距離)	放射性セシウム(Bq/kg)	内 訳		含水率 (%)	空間線量率 ( $\mu$ Sv/h)	備考 敷設チップの色等
		セシウム-134+セシウム-137	セシウム-134(Bq/kg)	セシウム-137(Bq/kg)			
NO. 1	門扉手前 2.5m	24	7	17	9.3	0.092	—
NO. 2	90m	8	検出せず ( $<2.91$ )	8	7.4	0.11	白
NO. 3	215m	3	検出せず ( $<2.88$ )	3	6.9	0.12	黒(竹藪側で採取)
NO. 4	285m	6	検出せず ( $<2.33$ )	6	9.9	0.11	黒
NO. 5	390m	3	検出せず ( $<2.69$ )	3	9.5	0.12	白
NO. 6	490m	5	検出せず ( $<3.31$ )	5	9.3	0.13	黒
NO. 7	545m	10	3	7	6.0	0.11	黒
NO. 8	600m	4	検出せず ( $<2.99$ )	4	4.6	0.11	土のう袋があった地点
NO. 9	623m	6	検出せず ( $<2.90$ )	6	6.3	0.10	土のう袋があった地点
NO. 10	633m	検出せず ( $<5.5$ )	検出せず ( $<2.23$ )	検出せず ( $<3.26$ )	6.3	0.11	土のう袋があった地点

( )内の数値は検出限界値

試料採取日:平成26年3月4日

検体番号	採取場所 (門扉からの距離)	放射性セシウム(Bq/kg)	内 訳		含水率 (%)	空間線量率 ( $\mu$ Sv/h)	備考 敷設チップの色等
		セシウム-134+セシウム-137	セシウム-134(Bq/kg)	セシウム-137(Bq/kg)			
NO. 1	門扉手前2.5m	検出せず ( $<5.1$ )	検出せず ( $<2.54$ )	検出せず ( $<2.60$ )	4.9	—	—

( )内の数値は検出限界値

【参考】

※1 県原子力防災室(当時:総合防災課)が実施した土壌の調査結果(セシウム-137を調査)

調査地点	旧マキノ町	旧今津町	旧余呉町	旧西浅井町
放射能濃度 ( $\mu$ Bq/kg)	2.41~15.6	6.50~12.2	1.36~2.01	4.77~38.7

別紙4 チップ撤去前後の空間線量率

門扉からの距離 (m)	敷設されていた チップの色等	チップ撤去前	2月23日測定
		9月11日測定 (地上1mで測定) ( $\mu$ Sv/h)	(地上1mで測定) ( $\mu$ Sv/h)
10	黒	—	0.084
20	黒	0.37	0.11
30	黒	—	0.11
50	黒	—	0.10
70	黒白	—	0.11
90	白	—	0.11
100	白	0.098	0.12
110	白	—	0.11
130	白	—	0.12
150	白	—	0.12
170	白黒	—	0.11
190	黒	—	0.11
200	黒	0.30	0.11
210	黒	—	0.12
230	黒	—	0.11
250	黒	—	0.10
270	黒	—	0.11
290	黒	—	0.11
300	黒	0.28	0.11
310	黒	—	0.11
330	黒	—	0.10
350	黒白	—	0.12
370	白	—	0.12
390	白	—	0.12
400	白	0.098	0.13
410	白	—	0.12
430	白	—	0.11
450	白	—	0.11
470	白黒	—	0.11
490	黒	—	0.12
500	黒	0.41	0.11
510	黒	—	0.11
530	黒	—	0.11
550	黒	—	0.10
570	黒	—	0.11
573	黒	0.13	0.11
575	土のう袋のあった場所	—	0.11
585	土のう袋のあった場所	—	0.10
590	土のう袋のあった場所	0.13	0.11
597	土のう袋のあった場所	—	0.11
608	土のう袋のあった場所	0.12	0.10
638	土のう袋のあった場所	0.12	0.10
650	最終地点	0.11	0.094

別紙 参考 鴨川周辺地域の空間線量率測定結果

測定日：平成26年2月17日

地点番号	場所名	土地利用	空間線量率 ( $\mu\text{Sv/h}$ )	備考
1	勝野、城山台公園	公園	0.15	
2	勝野、高島小学校	グラウンド	0.094	
3	勝野、日吉神社	神社入口	0.10	
4	勝野、関西電力変電所	山林	0.084	
5	音羽、小田川橋下流(右岸)	堤防	0.076	
6	音羽、小田川橋上流(右岸)	竹林	0.092	
7	永田、JR高架上流	竹林	0.11	
8	拝戸、区グラウンド	グラウンド	0.13	
9	高島上(鴨川右岸)	竹林	0.14	鴨川
10	武曾横山(鴨川左岸)、万年橋	竹林	0.088	鴨川
11	宮野(鴨川右岸)	竹林	0.11	鴨川
12	野田(鴨川左岸)中道橋	竹林	0.094	鴨川
13	宿鴨(鴨川右岸)天皇橋	高水敷内竹林	0.12	鴨川
14	出鴨(鴨川右岸)	竹林	0.082	鴨川
15	出鴨(鴨川右岸)	高水敷内	0.11	鴨川
16	北鴨(鴨川左岸)	竹林	0.082	鴨川
17	下小川(鴨川左岸)	竹林	0.098	鴨川
18	下小川出福(鴨川右岸)	竹林	0.096	鴨川
19	安曇川南流右岸、ふなき大橋、北船木	竹林	0.086	安曇川
20	安曇川南流左岸、北船木	高水敷内	0.070	安曇川
21	安曇川左岸、安曇川大橋、新庄	竹林	0.054	安曇川
22	安曇川左岸、常安橋北、安井川	竹林	0.072	安曇川
23	安曇川左岸、大荒比古神社、安井川	竹林	0.056	安曇川
24	勝野、和田打川左岸	高水敷内	0.094	和田打川
25	勝野、和田打川河口	河口	0.098	和田打川

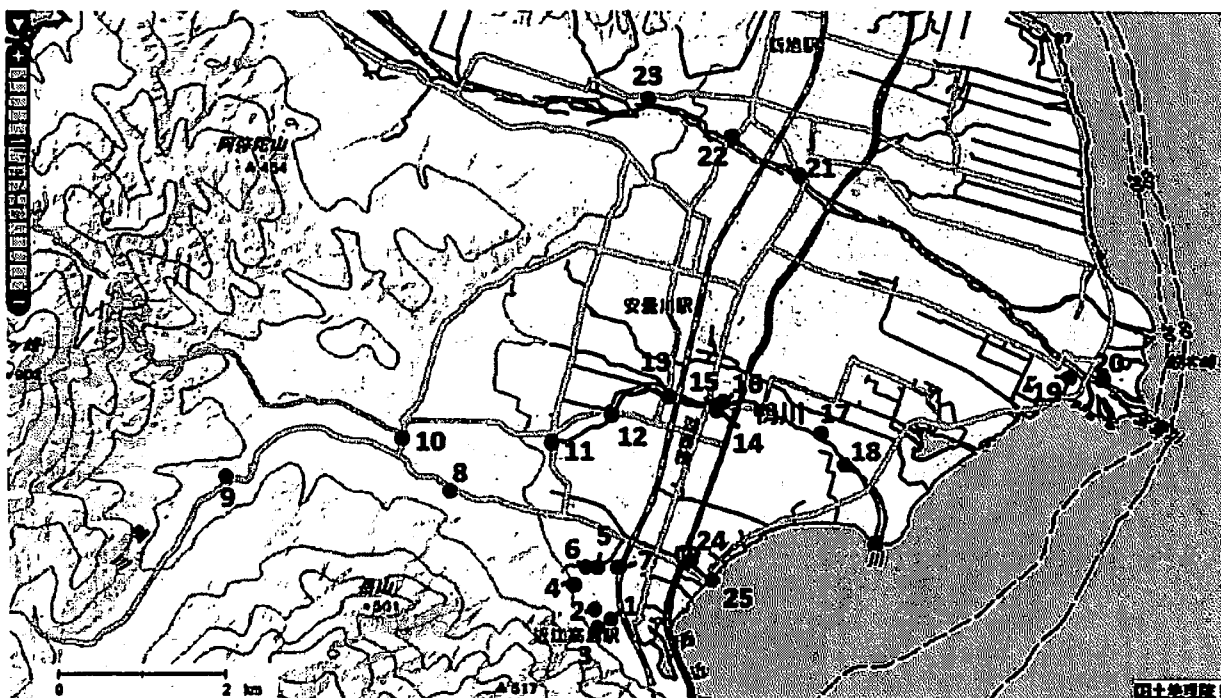


図 鴨川周辺地域の空間線量率測定場所